

ンを降らせたのです。それはパン、言い換えれば命の基本が神から与えられたことを示すものです。人はパンによつて命をつないでいるように見える。そのパンが食料の保証のない時に天から降ってきたのです。それは人間が生きていることはパンも含めて全く与えられたことである。だからその信仰に生きることが必要だということを示しているのです。神の恵みに生かされているという信仰をパンと共に与えられるのです。

命のパン

主イエスはご自分を「命のパン」と言われた(ヨハネ六章三四、三五節)ことがありま

す。そして「わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。」と。
わたしたちが祈り求めるのは、命の根幹であるパンを求めることです。そして主はその命の本質としてご自分を現わされたのです。するとパンの祈りは食べ物と求めると共に主を信じ、主の恵みを求めることが一体となっています。

御言葉の飢饉

アモスは「見よ、その日が来ればと主なる神は言われる。わたしは大地に飢えを送る。それはパンに飢えることでもなく水に渴くことでもなく主の言葉を聞くことのできぬ飢えと渴きだ。」(アモス八章一一節)と預言しました。

御言葉の飢饉です。御言葉を聞くことができないことの飢饉です。

問題はこの飢饉が自覚されていないことです。つまりわたしたちに与えられる命のパンである主イエスとその御言葉と実際の食べ物との切実になる経験がないのです。すると、自分がどんなに言葉の危機に陥っている

かが分からないのです。

東日本大震災の時のことですが、震災後すぐに食べるものが問題になりました。直後から食べ物と水が手に入らない状態が始まりました。

しかし、その時同時に起こったことは言葉に対する飢えでした。激しい被災の中で、だれもが言葉が必要としていました。信頼できる言葉、今の時の説明のつく言葉、先を示す言葉を必要としていました。しかしそれは災害の時だけでなく必要なことであつたのです。現代は言葉の飢饉の時代です。そのため

に目先のわずかな言葉で、人は右往左往しているのです。

主イエスが「だからこう祈りなさい」と言われたことそれ自身が言葉です。それは祈りに向かうことのできる道を開いた言葉です。

その中に、パンを求める祈りがあり、わたしたちは同時に主イエスが命の本質である命のパンであり、わたしたちが神の口からである一つ一つの言葉によつて生きることが祈ることができるとです。

定められたパン

主イエスが教えられた主のパンの祈りは御言葉の飢饉を癒す、なくてはならない食べ物です。

箴言三〇章七〜九節に
「二つのことをあなたに願います。
わたしが死ぬまで、それを拒まないでください。
むなしなもの、偽りの言葉を

わたしから遠ざけてください。
貧しくもせず、金持ちにもせず

わたしのために定められたパンで
わたしを養ってください。

飽き足りれば、裏切り
主など何者か、と言うおそれがあります。

貧しければ、盗みを働き

わたしの神の御名を汚しかねません。」とあります。パンの祈りはわたしたちの生活を慎ましく穏やかな仕方での恵みを知るものとしてくれるのです。
(七月一日 公同礼拝)

六月講壇一覽

第一主日 (六月六日)

公同礼拝

高橋和人牧師

「神の名を聖とする」

出エジプト三・一三〜一五

第二主日 (六月十三日)

公同礼拝

姜俔米牧師

「神の真実」

出エジプト一六・一二〜一六

第三主日 (六月二十日)

公同礼拝

高橋和人牧師

「御国よ来たれ」

ダニエル二・四四

第四主日 (六月二十七日)

公同礼拝

高橋和人牧師

「御心の実現」

出エジプト三・一三〜一五

六月の祈り

慰めと救いの主なる三位一体の神を信ずる信仰を新たにし、不安と混沌の時代にあつて確かな落ち着いた歩みを進めることができるように。

体調を崩し、弱り、疲れている兄弟姉妹